

## オリーブ山の垂訓

アミール・ツアルファティ

- イエスはだれに語られ、なぜそれが重要なのか -

[YouTube: 「オリーブ山の垂訓」](#)

オリーブ山の頂上から、おはようございます。アミール・ツアルファティです。今日は、歴史を通して、非常に多くの人たちを混乱させてきた問題についての特別メッセージで、イエスが、ここエルサレムで語られた最も重要な教えの一つの内容についてです。非常に面白いのは、イエスが語られたメッセージの内容は、あまりにも頻繁に誤解されてきたので、実際に、何世代にもわたって、終末論の全体像に影響を与えてきました。始めにお祈りをして、それから、神の御言葉に取り組んで、有名なオリーブ山の説教について、聖書が何と言っているかを見て行きます。オリーブ山の頂上から、2000年前にイエスが弟子たちに語られた預言的な教えです。

父なる神様、私達はあなたの御言葉に感謝します。あなたの御言葉は真実です。あなたの真理によって私達を聖化して下さい。あなたの御言葉は、確かに私達の足の光であり、私達の道の灯です。今日の私達の立ち位置、今日、私達の足が何処に立っているかだけでなく、道そのもの、つまり世界がどこに向かっているのか、イスラエルがどこに向かっているのか、あなたを信じる者たちがどこへ行くのかも示してください。私達はあなたに感謝し、あなたを褒めたたえ、比類のないイエスの御名によってお祈りします。アーメン

今朝は、オリーブ山の頂上にいます。おそらく雄鶏や鶏、歩いている人や、働いている人などの声や音がたくさん聞こえるでしょう。ここはにぎやかな街です。私達は、オリーブ山の斜面のてっぺんにいますが、今日ここには、かなりの数の人が住んでいます。私達は、地球上でおそらく最も興味深い地所を見渡せる、美しい場所を見つけました。間違いなく、地球上で最も争いの対象となり、最も議論的となる地所であると言ってもいいでしょう。私が話しているのは、言うまでもなく、私の背後にある神殿の丘のことです。今日、そこには、西暦691年以来、岩のドームが立っています。何らかの暴動のために、イスラム教徒たちがメッカに行くことが出来なかった時に、イスラム教の支配者によって建てられたものです。そしてもちろん、エルサレムはその時、約10~15年間、代わりの礼拝の場となっていました。では、歴史をさかのぼって、2000年前の現実を見てみましょう。

当時、エルサレムに住んでいたユダヤ人にとって、ここは、ほぼ1000年の間、彼らの首都でした。もちろん、3000年前のダビデ王以来のことで、言うまでもなく、イエスが来られたのは2000年前のことでした。ここは首都であり、また巡礼地です。ユダヤ人は、1年に7回ある全ての祭りの為に、ここに来ることが出来なければ、少なくとも1年に3度、重要な祭りには、ここを訪れました。仮庵の祭り、ペンテコステの祭り、過越の祭りです。私達が今取り扱っているのは、過越祭の前の一週間です。間違いなく、ユダヤ教の暦の中で最も重要な祭りです。歴史において、ローマ帝国が世界のこの地域を支配していた時代の話です。ローマ帝国の歴史の中で、ローマの総督が実際にエルサレムの街に居た年の事です。もちろん、それはみな、ユダヤ人がローマに対して暴動を起こす可能性のある状況に、どうにか対応するためでした。それまでは平和でした。神殿が立っていたことは分かっています。ある人が言いました。その当時のエルサレム、特に、その頃の神殿の建物は世界で最も壮観な建築物の一つでした。ある人が言っていますが、10点分の美しさが世界に与えられるとすれば、そのうちの9点は当時のエルサレムに取られるでしょう。ユダヤ人権力層とユダヤ人、そしてローマ帝国とその支配者とが、何とか共存していました。どういうわけか、トップレベルでは、ユダヤ人大祭司とユダヤ人権力者のトップ階級は、ローマ支配下での生活を何とか我慢のできる状況にしていました。そこで、今私達は、新約聖書の福音の最終局面に入ろうとしています。私達は皆、イエスがユダ部族の出身であり、生後数日目にエルサレムの神殿で、ささげられた事を知っています。イエスの、言ってみれば「バル・ミツバ」の説教が、彼が12~13歳の時に、ここで、神殿の中庭の辺りで

行われたことを知っています。私達は皆、イエス自身が「わたしはイスラエルの家の失われた羊のところに来た」と言われたことを知っています。私達は、サマリア人の女性と出会った際でも、イエスが、救いは確かにユダヤ人から出るという事実に言及された事を知っています。すなわち、メシアはユダヤ人の系統で、ユダの部族から出るという事。そして、イスラエルだけでなく、全世界のための救いは、ユダヤ民族の腰から出るという事です。それについては疑いの余地はありません。イエスが、何か全く新しい事を始めるという大きな変化について語られた時でさえ、…つまり、人々がどこにいても、霊とまことによって神を礼拝することができる。必ずしもユダヤ人である必要はなく、霊とまことによって神を礼拝するためには、必ずしもエルサレムにいる必要はないと言われた時、その時でさえも、イエスは、そのサマリア人の女性に語られた話の中で、女性に対し、非常に明確に言われました。事実を見る限り、救いはユダヤ人から出ます。ですから、文脈を正しく捉えなければなりません。イエスは、カトリックの司祭ではありません。彼は、ギリシャ正教の修道士でもありません。イエスは、決して、当時のギリシャの地やトルコの地にメッセージを伝えに来られたものではありません。イエスのメッセージは、小アジア全域に伝わりました。そうです、実際、世界中に伝わりました。しかし、イエスは、ご自分の民のところに来られたのです。イエスは、イスラエルの家の失われた羊のところに来られました。イエスの働きとメッセージのほとんどは、当時、直接ユダヤの人々に向けられていました。これは私達が理解せねばならない、重要なことです。

さて、福音全体の中で2度、イエスは山の上に立って、長い説教をされています。それらは実際、大方においてユダヤ人に語られています。そのことは、その内容から分かります。ガリラヤ湖岸の祝福の山の教えでは、イエスは、もちろん全世界に向けて語られましたが、しかし、主がユダヤ人に向かって語られたことは、イエスが、何度も何度も、繰り返し、繰り返し、旧約聖書を引用されたことから分かります。「あなたがたは『これをしてはいけない、あれをしてはいけない』と言われるのを聞いています。わたしは、その本当の意味を教えましょう。」さて、ユダヤ人ではない人々は、イエスが旧約聖書を引用された時に、何を意味されたのかさえ、誰も理解できなかったでしょう。それは、間違いなくユダヤ人に聞かせるためでした。そこで皆さんに理解してもらう必要があります。メッセージの背景、主に、二つの主要なメッセージ、つまり、「山上の垂訓」と「オリーブ山の説教」、これらはユダヤ人に向けられたメッセージです。私達は、そこから始めねばなりません。なぜなら、それが、これからイエスが語ろうとしている内容の土台となるものだからです。という事で、今、私達が取り扱っているのは、間違いなく、過越の前の最後の週のイエスの状況です。マタイによる福音書の21章では、イエスはすでにエルサレムに入ろうとしておられます。「勝利の入城」と呼ばれるもので、イエスは口バに乗っておられ、ゼカリヤ9章を成就されていました。イエスは、メシアとして街に入っていくところで、彼は初めて、人々が「彼こそメシアだ」と言うのを許しておられます。イエスは、このようにまで言われました。

### 「もしこの人たちが黙れば、石が叫びます。」（ルカ19:40）

したがって、この日が、預言者ダニエルが、ダニエル書9章で予測した、メシアが来て、その街に入るその日、その時刻、その年であることが分かります。アルタシャスタ王がネヘミヤに、エルサレムに行って、エルサレムの町と神殿を再建するよにとの命令を下した日から、きっかり173,880日という期間です。皆さん、神の御言葉は正確です。神の御言葉には、信頼性があります。神の御言葉は本物です。神の御言葉は、ものすごく信頼のできるものです。そして、神が、私達に予定表を与えようと望まれるなら、神は私達に、時には一年、一月、一日、一時間単位の正確さで、それを与えて下さいます。これこそ、そうです。西暦32年4月6日、イエスは、来たるべき君主としてエルサレムに入られました。では、次の事に注目して下さい。続く数日で、イエスは興味深い対面をすることになります。おもにユダヤ人指導者たち、ユダヤのパリサイ人たち、サドカイ派の人たち、祭司たち、そしてもちろん、ご自分の弟子たちと。マタイ24章は、マタイ23章のすぐ後に来ます。マタイ23章は、イエスが実際にユダヤ人指導者と対面している章です。非常に面白いのは、マタイによる福音書23章はマタイ21章の後に来ます。マタイ21章では、イエスは、道端にいちじくの木があるのをご覧になり、そのいちじくの木には実がなっていませんでした。このような、見せかけの木は、イエスを、非常に怒らせたことが分かります。（マタイ21:19）それで、イエスはその木に「おまえの実は、もういつまでも、ならないように」と言われた。さて、イエスはその木に命じられたのですが、イザ

ヤ書29章13節、ヨエル書1章6節、ホセア書9章10節から、私達は、いちじくの木がまた、イスラエルの民の民族的特権の象徴であったことを知っています。それゆえに、イエスがエルサレムでご覧になった現状、つまり、宗教的権力者たちが人々を利用していたこと。そして、彼らはその発言と行動が一致していない偽善者であったこと。その事が当然、イエスをして「この状態は長く続いてはならない」と言わしめました。そこで23章に移ると、イエスは7回も、「わざわざいだ。偽善の律法学者、パリサイ人。」という表現を使われています。ここで、イエスが考えておられた事が、私達には理解できます。ユダヤ人に良い知らせをもたらす為だけでなく、彼らの宗教的な現状について、それは失敗する運命にある事を話す為でもありました。そして、言うまでもなく、ここから非常に異なるシナリオに入っていきます。非常に面白い事ですが、23章で、イエスはまたこう言って締めくくられます。マタイ23:37-39

**「ああ、エルサレム、エルサレム。預言者たちを殺し、自分に遣わされた人たちを石で打つ者。」**

イエスは、明らかに、指導者たちの事を言っておられ、宗教熱心でも、本当の意味で、神と神の御言葉に従っていない民族のことを語っています。預言者たちは、神の民でした。なのに、聖書に書かれていることを見てください。

**「エルサレム。預言者たちを殺し、自分に遣わされた人たちを石で打つ者。わたしは、めんどりがひなを翼の下に集めるように、あなたの子らを幾たび集めようとしたことか。それなのに、あなたがた[指導者たち、宗教の霊]はそれを好まなかった。見なさい。あなたがたの家は荒れ果てたままに残される。あなたがたに告げます。『祝福あれ。主の御名によって来られる方に』とあなたがたが言うときまで、あなたがたは今後決してわたしを見ることはありません。」**（マタイ23:37-39）

イエスは、イスラエルの国に対して語っておられます。2000年前の現状についてだけでなく、イエスはまた、彼らに告げておられます。「わたしはこの都に戻って来る。しかし、あなたがたが『祝福あれ。主の御名によって来られる方に』と言うまでは、戻って来ません。」エルサレム、その民、その国家。あなたがたはここに戻ってなければならぬ。あなたがたの街を取り戻さねばならぬ。あなたがたは、メシアへの期待も再び呼び覚まされねばならぬだろう。しかし、あなたがたは、わたしを呼び戻すことになる。そして、わたしは戻ってくる。これは忠告の言葉であるだけでなく、希望と期待の言葉です。そこで、次に、マタイによる福音書24章の話、オリーブ山の説教に入ります。オリーブ山で語られた、イエスの教えです。

先にも言ったように、イエスが行なった二つの主要な説教があります。大体において、ユダヤ人に向けられたものです。イエスが祝福の教えをされた山上の垂訓と、オリーブ山での預言的な教えの説教です。イエスは、それを、ここオリーブ山の頂上でユダヤ人の弟子たちにも教えられました。私がいるこの場所は、恐らく、実際にイエスが弟子たちと一緒に座っていた場所から、あまり離れていないでしょう。彼らは、同じ雄鶏の鳴き声とか、私達が今聞いているのと同じような音や鳥の鳴き声を聞いたに違いありません。確かに岩のドームは存在しておらず、それよりもずっと大きな神殿がありました。しかし、言っておきますが、それ以来、そんなに変化はしていません。聖書には、イエスは宮を出て行かれたと書かれています。想像してみてください。私の背後にある神殿の丘、この場所と、神殿の丘の間にはキドロンの溪谷があります。イエスは宮を出て、キドロンを渡り、東へ、オリーブ山に向かって上がって行きました。聖書には、こう書かれています。マタイ24:2

**「そこで、イエスは彼らに答えて言われた。『「このすべての物に目をみはっているのでしょうか。まことに、あなたがたに告げます。ここでは、石がくずされずに、積まれたまま残ることは決してありません。』」**

イエスが何を言われたのか、お分かりですか？イエスはそれまでの3年間、ご自分に従ってきたユダヤ人たちに語っておられます。「見なさい。私達は今、（恐らく当時では、世界で）最も壮大な建物から出てきたところです。」あの神殿に続く橋の階段の一つは、間違いなく、当時、世界最大の階段で、今日、ロビンソン・アーチとして知られています。皆さんに理解してもらいたいのは、今、イエスが言われた言葉は…今





日、皆さんがそこに行ってみれば、石の山が積み上げられた通りを見ることが出来ます。一つの石も、積まれたまま残ることはなかったからです。あそこにユダヤ教の神殿が見えますか？絶対見えません。なぜですか？なぜなら、イエスは彼らには見えないことを知っておられたからです。これを見て下さい。ちなみに、私が座っている所から歩いて3分くらいの所に、ドミナス・フレビットという教会があります。「キリストの涙(主の泣かれた教会)」です。涙の形をした教会で、その教会の中には、イエスがロバに乗って町に降りて来られるに際し、エルサレムのことで涙を流された瞬間から四つの情景が刻まれています。その一つでは、人々が「ホサナ」と叫んで喜んでいるのが見え、彼らはイエスを見ています。しかし、イエスは、来たるべきエル

サレムの滅亡を見て、涙を流されています。彼らはイエスを見ます。イエスは未来をご存知です。彼らは喜んでいますが、イエスは悲しんでいます。だから、イエスはおそらく今、雰囲気をご壊しています。彼らはイエスに、最高に美しい建物を見せたところです。マタイ24章にも書いてありますが、それに対応するルカ21章を見ると、こう書いてあります。ルカ21章。

**「宮が、素晴らしい石や奉納物で飾ってあると話していた人々があった。するとイエスはこう言われた。『あなたがたの見ている、これらの物について言えば、石がくずされずに積まれたまま残ることのない日がやって来ます。』」 (ルカ21:5-6)**

お分かりですか？彼らは、建物のことで喜んでいて、イエスは、彼らの魂のことで悲しんでいました。彼らは外面のことで喜んでいましたが、イエスは、内面のことを悲しんでいました。そこで、彼らは、何かがおかしいことに気がつきました。「ヒューストン、問題発生」と言うように。彼らは、問題のある側面があることに気づきます。イエスは、彼らがメシアとその現れに対して期待していた通りの事を言ったり、行なったりしていませんでした。マタイ24：3

**「イエスがオリーブ山ですわっておられると、弟子たちが、ひそかにみもとに来て言った。」**

彼らは、何故、ひそかに来たのでしょうか？彼らは、通常だったら、いつもイエスの隣にいて、自慢していました。「こちらは私達の師です。先生のお話を聞きたい方、言っておきますが…。私達は、主に従うべく選ばれた者なんです。」この状況で、彼らは、実は、少し決まり悪い思いをしていました。イエスは、皆をうるたえさせるような事を言われたばかりです。そこで、彼らは、“ひそかに”イエスのみもとに来た、と聖書には書いてあります。そして、ひそかに、彼らはイエスに最も重要な質問をしています。まるでこんな具合です。「私達は、会堂で素晴らしいことを聞いています。私達は、ラビたちから素晴らしい話を聞いています。でも、私達は真実を知りたいんです。だから、こっそり教えてください。誰も聞いていませんから。3つのことを知りたいんです。」マタイ24:3

**「『お話しください。いつ、そのようなこと（神殿の破壊）が起こるのでしょうか。あなたの来られる時(や世の終わり)には、どんな前兆があるのでしょうか。』」**

それから、また、あなたは、数節前に、エルサレムがあなたを招く時に戻って来ると言われたのですから、教えてください。それから、三つ目の質問は、「世の終わりには、どんな前兆があるのでしょうか。」

ニューヨークのダウンタウンを歩いてみると、5番街、7番街、6番街では何よりも、霊能者の店が目立ちます。もちろんスタバもたくさんあるし、他の店もたくさんあります。霊能者の店は、ただ信じられないほど有名で、非常に人気があります。なお、ニューヨークだけではありません。なぜ、私がその話をするかというと、人には、未来を知りたいがる傾向があるのです。ちなみにユダヤ教や聖書では、魔術師や占い師のところに行くことは禁じられています。実際、サウル王は、サムエルを死者の中から呼び戻して質問するために占い師のところに行ったことで、神の裁きを受けました。神は未来について、聖書全体の1/3を私達に与

えておられるのです。私達は、これ(聖書)は無視して、代わりに、非常に多くの悪霊に悩まされ、影響されている人のところに行くことを選択します。そして、私達はその人に、私達の未来のことを尋ねるのです。ここで彼らは、イエスに究極の質問をしています。神殿の破壊について教えてください。あなたは今、あなたの再臨について話されました。あなたの来られる前兆は何か、教えてください。世の終わりの前兆は何か、教えてください。うわー。本当に、誰もがこれらの事を知りたがっています。それは、非常に興味深いことです。なぜなら、非ユダヤ人は、そのようには考えませんでした。非ユダヤ人は、メシアのことを考えなかったし、神殿のことも考えなかったし、終末の時代についても考えていませんでした。非ユダヤ人の持っていた哲学は、それら全ての事と完全に矛盾していました。彼らは複数の神々を信じていました。彼らは、天国も地獄も信じず、彼らは、罪も贖罪も信じていませんでした。彼らは、いけにえの儀式や贖罪の日であるヨム・キプールも、信じていませんでした。彼らは、唯一の神がいるとは信じず、創造を信じていませんでした。明らかに、ユダヤ人である弟子たちがイエスに尋ねているこれらの事は、ユダヤ人にとって最も重要な問題でした。(マタイ24:4-5)

**「そこで、イエスは彼らに答えて言われた。『人に惑わされないように気をつけなさい。』**

要するにイエスはこう言われます。「今からいくつかのことを告げます。これからわたしが話すことは、<sup>ゆが</sup>歪められ、変えられ、破壊され、人々はあなたがたを欺きます。」。マタイ24:4-5

**「『人に惑わされないように気をつけなさい。わたしの名を名のる者が大ぜい現れ、「私こそキリストだ」と言って、多くの人を惑わすでしょう。』」**

イエスは言われます。「いいですか、何が起こるのか教えましょう。でも警告しておきます。多くの人に来て『イエスの名において』と言って、とんでもない終末のシナリオを提示するでしょう。」そして、イエスは言われました。(マタイ24:6)

**「また、戦争のことや、戦争のうわさを聞くでしょうが、[注目してください] 気をつけて、あわてないようにしなさい。」**

申し上げたい事があります。世界中のキリスト教徒の99.9%が、戦争や戦争の噂を聞くたびに、あわてます。なぜ? -ああ、終わりだ! ほら、イエスは言われました。「あなたがたは、その事を聞くでしょうが、あわてないようにしなさい。」そしてイエスは言われます。これは面白いです。

**「これらは、必ず起こることです。しかし、終わりが来たのではありません。」**

面白いと思いませんか? 要するに、イエスはこう言われます。「戦争や戦争の噂は、人生の一部です。それらは起こるでしょう。実際、必ず起こる。でも、まだ終わりではありません。」非常に興味深いです。ところで、イエスは「必ず」という言葉を使っています。これは、イエスが昇天される直前のルカ24章にも見られる言葉です。イエスは44節で次のように言われています。ルカ24:44-45

**「『わたしがまだあなたがたといっしょにいたころ、あなたがたに話したことはこうです。わたしについてモーセの律法と預言者と、詩篇とに書いてあることは、必ず全部、成就するということでした。』そこで、イエスは、聖書を悟らせるために彼らの心を開いて、」**

イエスの関心事は、ただ一つ、「わたしはあなたがたに聖書を理解してほしい」ということだけでした。そして、イエスの時代に存在していた唯一の聖書は旧約聖書だけでした。新約聖書はありませんでした。終末論の本もDVDもYouTubeのビデオも、何もありませんでした。それは、ヘブライ語で言う「タナハ」律法と詩篇と預言者です。それだけです。そして、皆さんに理解してほしいのですが、イエスは、常に、彼らを聖書に導かれました。マタイ24:7-8

**「民族は民族に、国は国に敵対して立ち上がり、方々にききんと地震が起こります。しかし、そのようなことはみな、産みの苦しみの初めなのです。」**

イエスは、要するに、彼らにこう言っています。いいですか、これは墮落した世界です。預言者ヨエル、預言者エレミヤ、預言者イザヤ、預言者ミカ、預言者ホセアが語ったように、ここから良くなって行くことはありません。しかし、あなたがたに知っておいてほしいのは、この先に来るものに比べれば、こんなのは何でもない。さて、皆さんは、こんな風に思うかもしれません。「ちょっと待って。どういうつもりなんだ？『わたしを信じなさい』と言っておきながら、『事態はもっと悪くなる』って？」いいえ、イエスは、基本的にこう言っておられるのです。「あなたがわたしを信頼するなら、あわてなくてよい。しかし、もし、あなたがわたしを信頼しないなら、これはトラブルの始まりに過ぎない。」そして、イエスはユダヤ人に対して、ユダヤ人に関すること、信仰のこと、イスラエルの将来について話しています。そして、イエスは彼らに言われました。(マタイ24:9)

**「そのとき、人々は、あなたがたを苦しいめに会わせ、殺します。また、わたしの名のために、あなたがたはすべての国の人々に憎まれます。」**

さて、なぜイエスは、言われるのでしょうか。「あなたがたは、すべての国の人々に憎まれる。」これは、ちなみに、反ユダヤ主義の定義です。あなたは、すべての国の人々から嫌われる。一人の人間があなたを憎むのと、世界、各国があなたを憎むのは、別のことです。ユダヤ人は、おぞましい状況を経験しましたが、それでも、全世界から憎まれるほどまでは酷くはありませんでした。では、これを見てください。まだ続きがあります。イエスは、このようにも言われました。マタイ24:10-13

**「また、そのときは、人々がだぜいつまずき、互いに裏切り、憎み合います。また、にせ預言者が多く起こって、多くの人々を惑わします。不法がはびこるので、多くの人たちの愛は冷たくなります。しかし、最後まで耐え忍ぶ者は救われます。」**

つまり、一つ言わせてください。世界の支配者が来て、「私に従え」と言って、自分を神として崇拜する事を要求しても、あなたが立ち上がって「私はしない」と言って、最後まで耐え抜くなら、あなたは救われます。つまり、教会が携挙されていなくなった後、イスラエルは惑わされることになります。しかし、あなたが、やがて目を覚まして、何か恐ろしく間違っていることを理解し、「いいえ、結構です。私は神を信じます」と言うならば、あなたは救われるのです。イスラエルには、希望があります。マタイ24:14

**「この御国の福音は、全世界に宣べ伝えられて、すべての国民にあかしされ、それから、終わりの日が来ます。」**

言い換えれば、注目してください。(黙示録)11章によると、エルサレムに二人の証人が現れます。ヨハネの黙示録7章と14章によると、14万4000人の証人が存在することになります。皆さん、福音と希望のメッセージの証人は常に存在することになります。そして、全ての人にそれを聞く機会が与えられてから、終わりが訪れます。イエスが何と言われるか、見てください。マタイ24:15-16

**「それゆえ、預言者ダニエルによって語られたあの『荒らす憎むべき者』が、聖なる所に立つのを見たならば、(読者はよく読み取るように。)そのときは、ユダヤにいる人々は山へ逃げなさい。」**

イエスはユダヤ人、エルサレムの住民に対して反キリストが台頭する時の事を語っているのです。イエスは、神殿を持つことになる国、ユダヤの山々に隣接する国に向かって語っているのです。イエスは、彼らに、イスラエルの地形について、エルサレムの地形について話しています。イエスは彼らに言われます。マタイ24:17-20

**「屋上にいる者は、家の中の物を持ち出そうと下に降りてはいけません。」**

つまり、時間はない。走りなさい。荷物を取りに来ようとしてはならない。とにかく、走りなさい。  
マタイ24:17-20

**「畑にいる者は、着物を取りに戻ってはいけません。だがその日、哀れなのは身重の女と乳飲み子を持つ女です。ただ、あなたがたの逃げるのが、冬や安息日にならぬよう祈りなさい。」**

冬の間にエルサレムに来れば、どうしてそうなって欲しくないのか理由が分かります。また、ここに来れば分かりますが、安息日には、場所によっては道路が封鎖されることもあるのです。場所によっては、安息日に、その辺りを運転していたら、石を投げられることもあります。皆さん、オランダにいる人は誰も、なぜ山に逃げなければならないのか理解できないでしょう。そして、インドネシアにいる人は誰も、なぜ、それが安息日であってはいけないのかが分からないでしょう。そして間違いなく、フィリピンにいる人は誰も冬の何がそんなに悪いのか分からないでしょう。しかし、これら全ての事が、その土地、また、その街にいる国民について語っている事を理解すれば、これがユダヤ人へのメッセージであることが理解できるでしょう。これは、ユダヤ人への預言的なメッセージです。それから、イエスが言っていることを見てください。  
マタイ24:21

**「そのときには、世の初めから、今に至るまで、いまだかつてなかったような、またこれからもないような、ひどい苦難があるからです。」**

預言者ダニエル自身が12章でその事を描写した時と同じ言葉です。ダニエル書12:1

**「その時、あなたの国の人々を守る大いなる君、ミカエルが立ち上がる。国が始まって以来、その時まで、かつてなかったほどの苦難の時が来る。」**

皆さん、わかりませんか？同じ言葉、同じ表現で、彼が話しているのは、同じ人たちの事です。教会のことではありません。教会は大患難を経験しません。それはイスラエルのことです。これは、預言者エレミヤが30章で語っているのと全く同じ内容です。彼は、彼らに言っています。皆さん、第30章です。その苦難について、彼はこう言っています。エレミヤ30:7

**「ああ。その日は大いなる日、比べるものもない日だ。それはヤコブにも苦難の時だ。」**

それは教会の時ではなく、ヤコブの苦難の時です。ヤコブの別名はイスラエルです。私達は理解せねばなりません。この特定の章、または、この章のこの部分にある全ての事がイスラエルについて語っているのです。マタイ24:22

**「もし、その日数が少なくされなかったら、ひとりとして救われる者はないでしょう。しかし、選ばれた者のために、その日数は少なくされます。」**

ここが、多くの人が全体を誤って解釈してしまう原因となる部分です。ここで使われている「選ばれた者（エクレクトス）」という言葉ですが、これは、新約聖書の原典写本に出てくるギリシャ語の言葉です。ところで、多くの人が思っています。「ああ、信者たちだ。彼らが選ばれた者だ。それは教会のことを言っているに違いない。」絶対に違います。それは、申命記7章に見られるのと同じ言葉です。イスラエルの民に関して、申命記第7章です。彼は、イスラエルの民に、次のように言います。彼はこう言います。いいですか？注目して下さい。申命記7:7

**「主があなたがたを恋慕って、あなたがたを”選ばれた”のは、あなたがたがどの民よりも数が多かったか**



らではない。事実、あなたがたは、すべての国々の民のうちで最も数が少なかった。しかし、主があなたがたを愛されたから、また、あなたがたの先祖たちに誓われた誓いを守られたから、主は、力強い御手をもってあなたがたを連れ出し、」

選択。選ばれた者、彼らは選ばれた民です。非常に興味深いのは、多くの場合、最初にイスラエルに与えられた語句が後に教会にも適用されています。教会について、第一ペテロ2章にある通りです。皆さんもまた、選ばれた人々です。皆さんもまた、王の祭司です。はい、皆さんも、です。でも、皆さんが理解する必要があります。ここにある「選ばれた者」という語は、教会のことだと早合点<sup>はやがてん</sup>してはいけません。それは元々は、イスラエルの民を指していた言葉です。イエスは、また言われました。

**「もし、その日数が少なくされなかったら、ひとりとして救われる者はないでしょう。」 (マタイ24:22)**

それはまさに、預言者エレミヤと預言者ダニエルが言ったことです。この世に降りかかる、恐ろしい自然災害は、あまりにもひどくて、皆さんがこれまでの人生で見えてきたものなど、何でもないでしょう。皆さんは、COVID-19（新型コロナウイルス）が大変な世界危機だと思いますか？そんな考えは捨ててください。おそらく既に、治療薬が見つかっているでしょう。多分、これは、表向きは誇張されているものでしょう。皆さん、今、世界が経験しているものは、この世界を襲う、本物の恐ろしいものの影であるに過ぎません。その時には、何億人もの人が滅びることになります。それからイエスはこう言われます。マタイ24:26-28

**「だから、たとい、『そら、荒野にいらっしゃる』と言っても、飛び出して行ってはいけません。『そら、へやにいらっしゃる』と聞いても、信じてはいけません。人の子の来るのは、いなずまが東から出て、西にひらめくように、ちょうどそのように来るのです。死体のある所には、はげたかが集まります。」**

皆さん、イエスの初臨は、神の人々のためでした。罪の問題のために。それから、第一テサロニケ4章によると、イエスは雲の中に来られます。御自分の教会のために。しかし、イエスは上陸はされません。それは一瞬のことで、私達は消えます。第一コリント15章に書かれている通り、一瞬のうちにです。この章を呼んで行くと分かるように、私達は変えられ、居なくなります。しかし、イエスが聖徒たち、つまり私達と一緒に戻って来られて、ゼカリヤ14章にあるように、イエスの足がオリーブ山に立つときは、全世界がそれを見ることとなります。ですから、教会にとっては、イエスが私達を迎えに来られるのは、ものすごく迅速<sup>じんそく</sup>です。誰も、それに気づくことも出来ないでしょう。しかし、イスラエルにとっては、大患難の終わりにメシアが来られるのは、誰も見逃す事はありません。皆さん、イエスが言われることに注目してください。マタイ24:29-31

**「だが、これらの日の苦難に続いてすぐに、太陽は暗くなり、月は光を放たず、星は天から落ち、天の万象は揺り動かされます。そのとき、人の子のしるしが天に現れます。すると、地上のあらゆる種族は、悲しみながら、人の子が大能と輝かしい栄光を帯びて天の雲に乗って来るのを見るのです。人の子は大きなラッパの響きとともに、御使いたちを遣わします。すると御使いたちは、天の果てから果てまで、四方からその選<sup>せん</sup>びの民を集めます。」**

さあ、これは教会です。この「選<sup>せん</sup>びの民」は教会です。何故？彼は、どこから彼らを集めていますか？天から。彼らは、もうそこに居るんです。皆さん、理解しなければなりません。患難の終わりにイエスが戻って来られるのは、大きな不思議が伴います。その少し前に、恐ろしい物事が起こります。ちなみに、ユダヤ人の預言者が、既にそう言っています。預言者ヨエルです。ヨエル書2章です。イスラエルについて、ユダヤ人に悔い改めを説きながら、彼が言った事を見て下さい。彼は2章30節で、次のように言っています。

**「わたしは天と地に、不思議なしるしを現す。血と火と煙の柱である。主の大いなる恐るべき日に来る前に、太陽はやみとなり、月は血に変わる。」**恐るべきイエスの再臨。「シオンの山、エルサレムに、のがれる者があるからだ。」イエスが戻って来られる時に、イスラエルは救われます。「主が仰せられたように、



シオンの山、エルサレムに、のがれる者があるからだ。その生き残った者のうちに、主が呼ばれる者がいる。」驚きです。

では、注目してください。この時点で、イエスは一時停止されます。イエスは、彼らに言われたところです。「わたしは、ユダヤ人であるあなたがたに話しています。わたしは、イスラエル国家の全未来をあなたがたに告げています。A,B,C,D,Eといったことが起こります。それは、聖書にすべて書かれている通りです。あなたがたにはそれを理解してほしい。しかし、今からわたしがあなたがたに告げるのは、大転換期を見ることになる世代のことだ。」そして、イエスは彼らに語られます。マタイ24:32

**「いちじくの木から、たとえを学びなさい。」**

イエスが3章前に言われたのと同じいちじくの木が、今、登場しています。もしそれが、3章前でイスラエルを意味していたなら、ここでもイスラエルを意味するべきでしょう。そして、イエスは言われます。マタイ24:32-33。

**「枝が柔らかくなって、葉が出て来ると、夏の近いことがわかります。そのように、これらのことのすべてを見たら、あなたがたは、人の子が戸口まで近づいていると知りなさい。」**

多くの人々が混乱しています。「ちょっと待ってください。」「『あなたがた』という言葉は、イエスは、1世紀の弟子たちに言っているのではないですか？」絶対に違います。聖書の中には「あなたがた」という言葉が使われている場所がたくさんあります。例えば、申命記30章1-3節。申命記30:1-3

**「私があるあなたの前に置いた祝福とのろい、これらすべてのことが、あなたに臨み、あなたの神、主があるあなたをそこへ追い散らしたすべての国々の中で、あなたがこれらのことを心に留め、あなたの神、主に立ち返り、きょう、私があるあなたに命じるとおりに、あなたも、あなたの子どもたちも、心を尽くし、精神を尽くして御声に聞き従うなら、...あなたの神、主がそこへ散らしたすべての国々の民の中から、あなたを再び、集める。」**

いいですか、彼はその時のことを話していて、「主は何世代も後になって、あなたがたを連れ戻される」と言っているのです。だから、「あなたがた」という言葉を使う時、それは、今のあなたであることもあるし、何世代も後の、あなたがた国民ということもあります。それでも不十分であれば、エレミヤ31章1~6節に、別のくだりがあります。エレミヤ31:1-6

**「『その時、——主の御告げ——わたしは、イスラエルのすべての部族の神となり、彼らはわたしの民となる。』主はこう仰せられる。『剣を免れて生き残った民は荒野で恵みを得た。イスラエルよ。出て行って休みを得よ。』主は遠くから、私に現れた。『永遠の愛をもって、わたしはあなたを愛した。それゆえ、わたしはあなたに、誠実を尽くし続けた。...わたしは再びあなたを建て直し、あなたは建て直される。』**

同じことです。神は、その時に預言者によって彼らに語り、その同じ国の未来について語られました。だから、これは面白いんです。これが教会のことだと人々に思わせて、問題の原因になっている事、そのほとんどすべてを、私達は今、論破しました。それはイスラエルのことです。では、これを見て下さい。イエスは今、ある世代の信者たちに話しています。「いいですか。わたしはイスラエルの話をしてきたが、今はあなたがた、信者に話します。いちじくの木が生き返るのを見たら、イスラエルが、自分たちの土地に戻ってくるのを見たら、エルサレムが、彼らの手に戻るのを見たら、エレミヤ31章にあるように、彼らが、世界の四隅から戻って来るのを見たら、このことを知ってほしい。」マタイ24:34

**「まことに、あなたがたに告げます。これらのことが全部起こってしまうまでは、この時代は過ぎ去りません。」**

言い換えれば、この時代、私達はこの時代に生きています。現在、この世界に生きて、イエスの言葉を信じ、イエスを信じる者たちは、彼らは、神がご自分の民をこの地に連れ戻されたこと、ご自分の民をこの街に連れ戻されたという事実の証人です。そして、皆さんに知っていただきたいのは、イエスが、彼らにこう言っていることです。過去のどの世代とも違って、あなたがたはその、過ぎ去ることのない世代（時代）です。ところで、イエスはいつも言っておられます。「わたしが言う事はすべて、聖書に基づいている。わたしは作り話をしてはいない。わたしがここにいるのは、全てが成就する必要があるからだ。」だから、イエスはこう言われたのです。マタイ24:35

**「この天地は滅び去ります。しかし、わたしのことばは決して滅びることがありません。」**

そしてもちろん、イエスは、まずイスラエルについて話した後、イスラエルが戻っている時、つまり今の時代の教会のことを話した後で、彼が言っていることを見てください。マタイ24:36

**「ただし、その日、その時がいつであるかは、だれも知りません。」**

この世代にとって、私達が去ること、私達の出発については、その日、その時がいつであるかは、誰も知らない。いいですか。知っておいて欲しいのですが、患難は七年の大患難です。1日でも1時間でもありません。時に、患難が「主の日」と呼ばれることもあるのは知っています。しかし、ここでは、イエスは時刻のことまで言っています。そして、言われます。

**「その日、その時がいつであるかは、だれも知りません。天の御使いたちも子も知りません。ただ父だけが知っておられます。」**

言うまでもなく、その続きは、マタイ24:36-42

**「人の子が来るのは、ちょうど、ノアの日のようなからです。洪水前の日々は、ノアが箱舟に入るその日まで、人々は、飲んだり、食べたり、めとったり、とついだりしていました。そして、洪水が来てすべての物をさらってしまうまで、彼らはわからなかったのです。人の子が来るのも、そのとおりです。そのとき、畑にふたりいると、ひとりを取られ、ひとりが残されます。ふたりの女が臼をひいていると、ひとりを取られ、ひとりが残されます。だから、目をさましていなさい。あなたがたは、自分の主がいつ来られるか、知らないからです。」**

イエスは、あなたの主のことを言っています。彼は、すでにあなたの主です。イエスは信者の話をしていきます。携拳は差し迫っています。私達には、その日もその時も分かりません。しかし、私達は準備をしておかなければなりません。なぜ、見張れと言うのですか?あなたの主が来ようとしている。それは約束です。見張っていなさい。いつでも準備をしていなさい。マタイ24:44

**「だから、あなたがたも用心していなさい。なぜなら、人の子は、（あなたが）思いがけない時に来るのですから。」**

言い換えれば、何日、何時、何分だと言う信者はみんな間違っています。主がこの例祭、この祭り、この街、この年に来るとは予期しないでください。主は、あなたが予期していない時に来られるのですから。主は来て、いつでもあなたに準備ができているのをご覧になります。

では、皆さん、私達はその章の最後の部分でこのメッセージを締めくくります。私達は、多分数週間後に、また25章についてのメッセージをします。マタイ24:45-51

**「主人から、その家のしもべたちを任されて、食事時には彼らに食事をきちんと与えるような忠実な賢いし**

もべとは、いったいだれでしょう。主人が帰って来たときに、そのようにしているのを見られるしもべは幸いです。まことに、あなたがたに告げます。その主人は彼に自分の全財産を任せようになります。ところが、それが悪いしもべで、『主人はまだまだ帰るまい』と心の中で思い、その仲間を打ちたたき、酒飲みたちと飲んだり食べたりし始めていると、そのしもべの主人は、思いがけない日の思わぬ時間に帰って来ます。そして、彼をきびしく罰して、その報いを偽善者たちと同じにするに違いありません。しもべはそこで泣いて歯ぎしりするのです。」

泣いて歯ぎしりするのとは、患難の終わり、さばきの大きな白い御座まで保留されています。言うまでもなく、信じない者たちのための火の池での永遠の罰に。しかし皆さん、このメッセージの結論は基本的にこれです。まず、イエスは、イスラエルの国について語られ、その後イエスは、今現在の信者たちの話をされました。それからイエスは彼らに警告されています。準備をしていなさい。宗教熱心な振りをしないで。教会を社交の場だけにしてはいけません。準備が出来ている振りをしてはいけません。新生して、霊に満たされている振りをしてはいけません。主が語られるのを聞いた事もないのに、「主はこう言われる」と言っただけでいい。自分のエゴや、自分のことを推進するために聖徒のお金を使ってはいけません。そして、まるでこの世があなたの最終目的地であるかのように、この世界を楽しんで生きてはいけません。目をさまして、用心しててください。そうすれば、あなたは新しいエルサレムで分け前をいただくことになります。

ところで、主と共に治めるといえることと言えば、これらは私達にある約束です。千年王国でさえも。私達は主と一緒に住むことになるだけでなく、聖書によると、私達もまた、支配することになります。ですから、このメッセージを、聖書全体にあるあのシンプルな希望で締めくくります。オリーブ山の頂上、エルサレムの街、偉大なる王の都、神がご自分の民を連れ戻された場所から皆さんに知っていただきたいのは、いちじくの木が咲いていて、イスラエルは戻っています。この時代は過ぎ去りません。そして、教会の携挙と患難時代の終わりに、イスラエルの国のためにイエスが教会と共に戻って来られるのとは、大きな違いがあります。私達が覚えておかなければならないのは、大患難を経験するのがイスラエルであり、教会でないならば、教会は患難の前に携挙されなければならないということです。これが患難前携挙説の基盤です。この章は、その誤りを暴くのではなく、実際には、その素晴らしい希望を証拠づけるものです。私達は神の御怒りには定められておらず、主は私達を連れ出すために来られます。これが私達の祝福された希望です。私達の中には朽ちない者もいるかもしれませんが。私達は朽ちないものを着るのです。私達は、一瞬のうちに変えられます。私達は永遠に主と一緒にいます。

お父様。御言葉に感謝します。私達のみならず、あなたの国イスラエルへの御約束を感謝します。私達は、彼らが「宗教」を選び続け、彼らが「みせかけ」というあの悲惨な過ちに陥り続けていることを、哀しく思います。お父様。彼らが救い主の必要性を理解することを祈ります。彼らが預言者、すべての預言者を理解しますように。彼らを悔い改めに導いてください。悔い改めだけが、最終的に、彼らを全世界の恐ろしい終結から免れさせ、子羊の命の書に名前が記される者とならせるのです。お父様、私達にある希望を感謝します。そして、私達を救うために来られたイエス様に感謝します。そのイエスの御名によって、私達は祈ります。

アーメン



メッセージ by Amir Tsarfati / Behold Israel :<http://beholdisrael.org/>

ビホールドイスラエル 日本語 YouTube チャンネル

<https://www.youtube.com/channel/UCLcuvC6Mr63AqwiiXDkwRVQ>

2020.09.13 (Sun)